

会 議 録

会 議 名	令和2年度第5回 第2期東浦町まち・ひと・しごと創生総合戦略検討委員会	
開 催 日 時	令和2年10月20日(火) 11時から12時15分まで	
開 催 場 所	東浦町役場西会議室(委員はオンラインで出席)	
出 席 者	委員	高野雅夫(委員長)、関 浩二(副委員長)、蟹江吉弘、榊原 豪、山本隆明、平野智子、野崎麻里、鈴木真子
	事務局	町長、企画政策部長、企画政策課長、企画政策係長、企画政策課主事
議 題 (公開又は非公開の別)	1 第1期東浦町まち・ひと・しごと創生総合戦略の総括について 2 検討委員から町に対して提案された要望・意見に関する各課の進捗状況について	
非公開の理由 (会議を非公開とした場合)	—	
傍聴者の数	1名	
審 議 内 容 (概 要)	議題の審議内容は、別紙のとおり	
備 考		

審 議 内 容 (概 要)

1 町長あいさつ

平成 27 年度からスタートした「東浦町まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、一年ごとに実績報告及び進捗状況の報告を行っている。第 1 期の計画期間は、令和元年度をもって終了し、今年度から第 2 期の計画期間となる。本日は、第 2 期総合戦略作成時に皆様から意見を賜ったので、そちらに対する各課の進捗状況について報告させていただく。委員の皆様には、忌憚なく発言をいただきたい。

2 議題

(1) 第 1 期東浦町まち・ひと・しごと創生総合戦略の総括について (資料 1)

(2) 検討委員から町に対して提案された要望・意見に関する各課の進捗状況について (資料 2)

事務局より「資料 1」及び「資料 2」について説明を行った後、事前に提出のあった委員意見及び事務局からの回答を報告した。

<事前送付があった委員意見>

ア 資料 1 について、分野ごとに優先順位を明確にしたうえで評価を行い、それぞれにどの割合でリソースを投入するかを決めるべき。また、継続的かつターゲットに即した町内外へのプロモーションの強化が、在住者における理解の深まりや愛着の高まりにつながり、区域外からの転居のきっかけになると思う。

⇒ 第 2 期東浦町まち・ひと・しごと創生総合戦略の重要業績指数 (KPI) については、第 1 期の評価を基に重要度の高い KPI を設定している。今後、どの施策を重点的に行っていくか、影響度の低い重要業績指数 (KPI) の達成状況に引っ張られない評価方法を検討し、行っていく。また、シティプロモーションについては、取組を強化し、町民の理解を深め、愛着を高められるような取組を検討していく。併せて、町外の方にも引き続き PR を行い、本町への転入へとつなげていきたいと考えている。

<当日の主な意見は以下のとおり>

イ 資料 2 について、リフレッシュ保育のグッズをレンタルできるようにしたり、託児付き講座を開催するようにしたりと、この会議体で提案・要望した取組みが実施されることになりとても嬉しい。

ウ 資料 2 について、「取り組むこととなった」「引き続き検討を進めている」といった前向きな回答が多く、大変嬉しく思っている。ただ、「1 リフレッシュ保育のグッズ」については、公に PR しないのであれば、レンタルできるようになったことに気づかない人も多いのではないか。また、「7 不妊治療補助制度」について、どのような内容のアンケートを行うのが気になった。「8 妊娠中の健康維持、体力増進のための教室」については、妊娠中の方だけではなく、産後の方に向けた教室も行って欲しい。

⇒ 不妊治療については、国においても保険適用に向けて検討が進められている。本町では、所得及び年齢制限がなく、全額対象とした補助を行っており、このような体制を取っている県内市町村は東浦町と東海市だけであることから、国の動向を踏まえつつ、より良い制度になるよう検討を進めていきたい。

エ 東浦町に人を呼び込むための魅力発信が少なく、人を惹きつけるものがない。東浦町に

住みたいと思っている人はいると思うが、住宅用地が少なく、土地がないことから他市町を選ぶ人も多いのではないかと。子育てについても、東浦町独自の取組を行うことにより、さらに魅力あるまちになると思う。

オ 東浦町の商業については、新型コロナウイルスの影響により町内の8割の事業所が減収となっている状況。飲食店の支援としては、町民全員に町内飲食店で使用できるクーポン券の配布を行っており、工業系の企業には、補助金や融資についてのPRを行っている。

カ 資料2について、要望・提案に対して、前向きな回答が多くて良いと思うが、「12 協同学習」については、近隣市町と同じような内容を行うのではなく、東浦町の魅力や特色を活かした東浦町独自の協同学習を実施して欲しい。

キ 資料1について、基本目標3及び4の達成状況が低いと感じた。東浦町の主要道路である366号線とJR各駅との連結性を高めることによって、より魅力あるまちづくりができるのではないかと。現在、駅前開発を行っているのはどの駅か。

⇒ 土地利用構想では、JR尾張森岡駅とJR緒川駅の間に住宅用地として位置付けるエリアがあるため、そのようなエリアをつないでいき、366号線沿線の魅力を高めていこうと取り組んでいる。また、現在、東浦駅西側の駅前空間の再整備を検討している。

ク 資料1について、新規就農者の人数が目標値を大幅に超えている点が目に付いた。新規の方ではどのような経緯で就農されたのか、どのような農業を行っているのか。新規就農者の増加は、東浦町が目指していくべき方向のヒントになると思う。町として何か支援を行っているのか。

⇒ 町内には果物農家が多く、親元就農する人も多く、果物農家は巨峰、イチジク、いちご農家が多い。また、まったく農業の経験のない方が就農するケースもあることから、どのような経緯、要因でこのような結果が出ているのか、次回の会議で担当課より説明させていただく。

ケ 総合戦略で一番大事なKPIは出生率だと思う。出生率を上げるためには、従来行ってきた取組みの延長ではなく、新たな取組を実施していく必要がある。出生率を本当に上げたいのであれば、全員で知恵を出し合ってきちんと取り組んでいかなければいけない。また、庁内の推進体制も整えていく必要がある。

コ 出生率を上げるためには、一番困っている人にフォーカスを当てていくべき。一番困っているのは「シングルマザー」であり、新型コロナウイルス感染症の影響により、これまでよりもさらに厳しい状態にあると思う。シングルマザーはマイノリティだが、シングルマザーへの支援を通じてマジョリティに対して「困っていたら助けてくれるまち」といった安心感を与えていくことが大切である。

サ 町として、外国人の生活状況を把握し、何が出来るか支援等を考えて欲しい。

3 町長講評

特色のある取組をとるという意見が多かったが、町として行っているが皆さんに伝わっていないものがあると感じた。シングルマザーへの施策は以前から少しずつ打ち出しているが、本当に助かるものになっているかが難しいところである。ただ、妊産婦へのケアについては、うららんや保健センターを中心に手厚くやっていると自負している。保育園における私的契約児の受入れについても、おそらく日本一の実績だが、上手く伝わっていないように感じている。

また、全てにおいて近隣の自治体がやっているレベル以上の取組を行っていくとなると、財政的にもたないため、「ここだけは」という点を作って訴求していくことが必要だ

と考えている。ただし、ユニークなことをやろうとする反対する人が多くてできない面もある。例えば、子どもを保育園に通わず家庭で保育している方を応援するための助成を実施しようとしたが、保育園に行くのが普通であると考える人が多く、実現することができなかったことがある。

新規就農については、町として特別な取組は行っていないにも関わらず伸びている状況であり、伸びしろはあると思う。日本の場合は農業でも商業でも工業でも親族間の承継が当たり前になっているが、農業、商業、工業を行っている人と、全く関係がないがそれらをやりたいと思っている人をつなぐ仕組みができれば面白い。

外国人については、東浦町の人口の3パーセント程度の割合となっているが、コミュニティに参加している方以外の状況は把握できていない。外国人が置かれている状況の把握を行い、日本人と同じサービスを行っていく必要がある。

出生率については、子どもを持つことに対する前向きな印象を多くの人が持たないと、人口を増加させることは難しいと思う。自治体としては、子どもを持つことを考えている方たちに対し、住みやすいまちづくりを行っているまちであることを伝えていくことが大切である。

午後 12 時 15 分閉会